

1. 日本語教育部門

一橋大学における日本語教育は大きく5つに分類することができる。第一は「日本語研修コース」であり、文部省国費研究留学生に対する日本語の予備教育である。第二は「教養教育科目としての日本語科目」であり、第三は「学部教育科目としての日本語科目」、第四は「大学院科目」、そして第五は「春季・秋季日本語コース」である。第一と第五を除いて、これらの日本語科目はすべて単位が認定される科目となっており、本学の日本語教育における一つの特徴となっている。また、後掲の表にあるように、日本語担当教官が各学部や研究科と連携をとりながら、センターや学部の枠にとらわれず、講義を担当していることもその特徴として挙げられる。

98年度において特筆すべきは、カリキュラムの運用に柔軟性を加えたことである。

「日本語研修生は日本語研修コースで日本語を学習する」、或は、学部留学生や大学院研究生、交換留学生は、教養教育科目としての日本語科目や学部開講科目の日本語を履修するといった枠組みを取り払い、留学生の「身分」に捕らわれることなく、また日本語科目の「発給元」（留学生センターか教養教育委員会か学部かといったこと）に捕らわれることなく、学習者がそのニーズに合った科目を履修できるよう、運用面で配慮を加えた点である。当然のことながら、枠組みとしてのカリキュラムの改革なくしては限界があることも否めず、学習者の需要に、より合致したカリキュラム作成に着手することとなった。

1. 日本語研修コース

〈コースの概要〉

本コースは文部省国費研究留学生に対する日本語の予備教育を行うコースである。このコースに所属する留学生は「日本語研修生」と呼ばれるが、本学配置の者のほか、主に関東地区の国・私立大学への進学予定者も含まれている。日本語学習歴ゼロの者から初中級レベルにある留学生が日本語予備教育を受講することとなる。半年の学習の後は、本学または他大学の研究生となる。なお、大学院入試に合格して大学院生となる場合もある。本コースの日本語学習の目標は、学内外の日常生活に必要な日本語運用能力を獲得することであり、また、それぞれの専門の勉学・研究活動に必要な日本語力の基礎を構築することである。本学は社会科学の総合大学であるが、前述の通り、他の大学に配置される学生もおり、日本語研修生の専門分野は社会科学分野とは限らず、理工系から、教育、芸術の分野と幅広い。特に中級以降ではそれぞれの学生の専門に対応した専門日本語教育の展開が模索されている。

16週間の本コース終了後には、それに接続した日本語学習のクラスが「春季・秋季日本語コース」および、学部の科目（「教養教育科目」「学部教育科目」）の中に準備されて

いる。例えば、学習歴ゼロで日本語研修コースに入学した学生の場合、16週間の研修コースの後、3週間の「春季・秋季日本語コース」内の、日本語初級終了レベルに合わせた、中級への橋渡しクラスで学習を継続する。さらに「春季・秋季日本語コース」を修了した本学配置の学生には、次学期に学部の科目内に、そのレベルに合った日本語クラスが連動しており、日本語学習をスムーズに継続できるよう配慮がなされている。

日本語教育のほか、異文化理解・適応に焦点を当てた授業科目として「異文化発見ゼミナール」が97年度から開講され（木曜午後2コマ、98年度からは科目名を「日本の社会と文化」に変更）、日本の社会と文化を理解するための講義・工場見学・中学校訪問・伝統文化鑑賞など多彩な活動が展開されている。

〈各学期報告〉

①第四期（98年4月コース '98 4月～ '98 10月）

11か国からの13名の留学生が参加。3クラス編成。6名を未習者クラス（1クラス）4名を初級前半クラス（1クラス）、3名を初級後半～中級クラス（1クラス）とした。今期、初めて私費の研究生をコースに受け入れた。

日本語教育担当教員は6名の専任教官、及び7名の非常勤講師（高橋美和子、田中久美子、中川まち子、福岡理恵子、丸谷しのぶ、三角友子、渡辺晴世）（敬称略）

メインテキスト：『初級日本語』（東京外大編） 『中級日本語』（東京外大編）

『上級で学ぶ日本語』（研究社）等

第四期生名簿

氏名	性別	国籍	配置先大学
Upariputti Suchin	M	タイ	一橋大学商学研究科
Maximilian Stephan Poell	M	ドイツ	一橋大学商学研究科
Michael Schick	M	ドイツ	一橋大学商学研究科
Mark Thomas Essex	M	イギリス	一橋大学経済学研究科
Eugenio Ricaud	M	アルゼンチン	一橋大学経済研究科
Stephan Martens	M	ドイツ	一橋大学社会学研究科
Eko Widodo	M	インドネシア	信州大学
Pouresfandiari Farshid	M	イラン	信州大学
Morita Amelia Masae	F	ブラジル	信州大学
Ouedraogo Carole Eva	F	コートジワール	山梨大学
Alba Jimena	F	ボリビア	山梨医科大学
肖萍*	F	中国	一橋大学法学研究科
Kurunawa Dhammaratana *	M	スリランカ	一橋大学言語社会研究科

* 私費研修生

日本語教育部門

第四期時間割

		I	II	III	IV
月	A	初級・文型語彙 (丸谷)	初級・文型語彙 (丸谷)	初級・会話聴解 (杉田)	初級・文字 (杉田)
	B	初級・文型語彙 (田中)	初級・文型語彙 (田中)	初級・会話聴解 (庵)	初級・文字 (庵)
	C	中級・文型語彙 (福岡)	中級・文型語彙 (福岡)	中級・読解 (五味)	中級・作文 (五味)
火	A	初級・文型語彙 (丸谷)	初級・文型語彙 (丸谷)	初級・会話聴解 (高橋) A B 合同	初級・文字 (高橋) A B 合同
	B	初級・文型語彙 (渡辺)	初級・文型語彙 (渡辺)		
	C	中級・文型語彙 (福岡)	中級・文型語彙 (福岡)	中級・文字 (庵)	中級・会話聴解 (鶴田)
水	A	初級・文型語彙 (杉田)	初級・文型語彙 (杉田)	/	/
	B	初級・文型語彙 (西谷)	初級・文型語彙 (鶴田)		
	C	専門語彙 (今村)	中級・聴解 (五味)		
木	A	初級・文型語彙 (三角)	初級・文型語彙 (三角)	日本の社会と文化 (横田・水野)	
	B	初級・文型語彙 (渡辺)	初級・文型語彙 (渡辺)		
	C	中級・文型語彙 (中川)	中級・文型語彙 (中川)		
金	A	初級・文型語彙 (三角)	初級・文型語彙 (三角)	初級・会話聴解 (高橋) A B 合同	初級・文字 (高橋) A B 合同
	B	初級・文型語彙 (田中)	初級・文型語彙 (田中)		
	C	中級・文型語彙 (中川)	中級・文型語彙 (中川)	中級・文字 (庵)	中級・会話聴解 (庵)

今期から大学全体の始業時間等が変更され、次のようになった。

I 限 8:50 - 10:20 II 限 10:35 - 12:05

Ⅲ限 12:55 - 14:25 Ⅳ限 14:40 - 16:10

②第五期（98年10月コース '98 10月～'99 3月）

13か国からの17名の留学生が参加。3クラス編成。7名を未習者クラス（1クラス）4名を初級前半レベルのクラス（1クラス）、4名を中級レベルのクラス（1クラス）に配置し、2名を上級レベルとした。

研修生の日本語レベルが初級から上級段階まで広がったことが今期の特徴。それに伴い、日本語研修生であっても研修コース以外の日本語科目（「上級・前」「文章表現Ⅱ」「経済の日本語」等々）を受講することとなった。日本語研修生、交換留学生、大学院研究生といった身分の違いも、また研修コース開講科目、教養教育科目、学部開講科目等の垣根をも取り払い、留学生のニーズに応じて、どの日本語科目も受講できるよう、本格的な一歩を踏み出した。（第五期以前も試行していたが。）

日本語教育担当教員は6名の専任教官、及び7名の非常勤講師（高橋美和子、田中久美子、中川まち子、福岡理恵子、丸谷しのぶ、三角友子、渡辺晴世）（敬称略）

メインテキスト：『初級日本語』（東京外大編） 『中級日本語』（東京外大編）

『上級で学ぶ日本語』（研究社）等

第五期生名簿

氏名	性別	国籍	配置先大学
Volgyi Tamas	M	ハンガリー	一橋大学商学研究科
Sugino Scott Dean	M	アメリカ合衆国	一橋大学経済学研究科
Denes Zoltan	M	ハンガリー	一橋大学経済学研究科
Durringer Fabien	M	フランス	一橋大学経済学研究科
Egretaud Eric	M	フランス	一橋大学経済学研究科
Blaise Severine Corinne	F	フランス	一橋大学経済学研究科
Islamov Aybek Amanullaevich	M	ウズベキスタン	一橋大学経済学研究科
Zea Zagreb	M	グアテマラ	山梨医科大学
Abreu Isabela Assisde	F	ブラジル	群馬大学
Stanojevic Mico	M	ボスニアヘルツェゴビナ	群馬大学
Hussar Piret	F	エストニア	群馬大学
Lee Eun Kyu **（李恩圭）	F	韓国	信州大学
Zhao Yan Yan **（趙燕燕）	F	中国	信州大学
Mckinney Sarah Jane	F	ニュージーランド	信州大学
Arifkhanov Sharaf Shavikatovchi	M	ウズベキスタン	一橋大学経済学研究科
Liu Hu *（劉虎）	M	中国	一橋大学経済学研究科
Deng Xio Dan *（邓晓丹）	F	中国	一橋大学法学研究科

* 大学推薦の研究生 ** 教員研修生

日本語教育部門

第五期時間割

		I	II	III	IV
月	A	初級・文型語彙 (田中)	初級・文型語彙 (田中)	初級・会話聴解 (西谷)	初級・文字 (西谷)
	B	初級・文型語彙 (丸谷)	初級・文型語彙 (丸谷)	初級・会話聴解 (庵)	初級・作文 (五味)
	C	中級・文型語彙 (福岡)	中級・文型語彙 (福岡)		
		上級・聴解 (鶴田)	中級・作文 (五味)	中級・総合 (鶴田)	
火	A	初級・文型語彙 (渡辺)	初級・文型語彙 (渡辺)	初級・会話聴解 (高橋)	初級・文字 (高橋)
	B	初級・文型語彙 (丸谷)	初級・文型語彙 (丸谷)	初級・会話聴解 (中川)	初級・文字 (中川)
	C	中級・文型語彙 (福岡)	中級・文型語彙 (福岡)		
水	A	初級・文型語彙 (西谷)	初級・文型語彙 (西谷)		
	B	初級・文型語彙 (庵)	初級・文型語彙 (庵)		
	C	翻訳の日本語 (鶴田)	中級・文字語彙 (五味)		
木	A	初級・文型語彙 (渡辺)	初級・文型語彙 (渡辺)	日本の社会と文化 (横田・水野)	
	B	初級・文型語彙 (三角)	初級・文型語彙 (三角)		
	C	中級・文字語彙 (五味)	中級・聴解 (五味)		
金	A	初級・文型語彙 (田中)	初級・文型語彙 (田中)	初級・会話聴解 (高橋)	初級・文字 (高橋)
	B	初級・文型語彙 (三角)	初級・文型語彙 (三角)	初級・会話聴解 (中川)	初級・文字 (中川)
	C	中級・総合 (鶴田)			

2. 教養教育科目としての日本語科目

教養教育科目として開講される日本語関係科目は広範にわたる。1998年度は、科目数で21、ゼメスター単位の延べコマ数で46コマ(1コマ=90分授業が週に1回で、2単位に相当)になる。以下に各科目の担当者、コマ数、対象、内容、総時間数などを表に記す。

2-1. 日本語・日本事情科目

「日本語A」と「日本語B」は学部1年次の留学生のためのクラスで、「一般日本事情Ⅰ」及び「一般日本事情Ⅱ」は主に学部1・2年次の留学生を対象としている。この4科目が狭義の「日本語・日本事情科目」と呼ばれるものである。

表1：日本語・日本事情科目

科目(担当者)	コマ数	対象	授業内容・到達目標	時期・時間数
日本語A(三枝、今村)	2コマ /週	学部1年の留学生	社会科学の勉学に必要な日本語能力を総合的に養成。特に教科書等を正確に読みこなし、講義を聞いて理解する訓練をする。	夏学期開講 60時間
日本語B(三枝、鶴田)	2コマ /週	上に同じ	「日本語A」に続いて高度な日本語能力を養成する。	冬学期開講 60時間
一般日本事情Ⅰ(松岡)	1コマ /週	主に学部1・2年の留学生	日本人が常識として知っている歴史上の知識や事柄の中から、話題性のあるもの、日常生活で必要なものを取り上げる。	夏学期開講 30時間
一般日本事情Ⅱ(五味)	1コマ /週	上に同じ	現代日本に焦点を絞り、現代日本社会の理解に役立つ歴史的な事柄を扱う。	冬学期開講 30時間

2-2. 全留学生対象の日本語科目

「日本語中級・前」から「日本語選択・日本語講読」までの12科目は、単位取得が可能な正規科目として、交流学生(交流協定校からの1年の短期留学生)、研究生(日本語研修コース修了生を含む)、日本語日本文化研修生(略称「日研生」)、学部1・2年生、大学院正規生など、全カテゴリーの留学生がレベルとニーズにふさわしいものを履修している。

このうち、「日本語中級・前」から「日本語上級・後」の5科目は、レベル別の「基本科目」、それ以外は技能別の「選択科目」である。前者のクラス編成はプレースメント・テストの結果等をもとに行われている。後者は、学習者がそれぞれのニーズによって履修するものだが、1996年度まで開かれていた「日本語選択・口頭表現」は1997年度に引き

日本語教育部門

続き 1998 年度も休講した。一方 1997 年度に休講した「日本語選択・漢字 C A I」は 1998 年度に復活した。なお、1997 年度の非常勤講師は、梅岡巳香、清水佳子、立野みどりであった。

表 2：基本科目

科目(担当者)	コマ数	対象	授業内容・到達目標	時期・時間数
日本語中級・前 (鶴田、立野)	4コマ /週	主に交流学生、研究生	教科書に沿って中級前期レベルの文法・漢字・語彙をマスターし、合わせて大学生生活に必要な会話力や聴解力を習得する。	夏と冬に開講 各 120 時間
日本語中級・中 (清水)	2コマ /週	上に同じ	教科書に沿って中級中期レベルの文法・漢字・語彙をマスターし、視聴覚教材を利用しながら読解力や聴解力を向上させる。	夏と冬に開講 各 60 時間
日本語中級・後 (梅岡)	2コマ /週	上に同じ	教科書に沿って中級後期レベルの文法・漢字・語彙をマスターし、視聴覚教材を利用しながら読解力や聴解力を向上させる。	夏と冬に開講 各 60 時間
日本語上級・前 (三枝)	2コマ /週	上に同じ	教科書やビデオ教材を利用しながら上級前半レベルの文法・漢字・語彙をマスターし、読解力や聴解力を向上させる。	夏と冬に開講 各 60 時間
日本語上級・後 (今村)	2コマ /週	主に交流学生、研究生、学部 1・2 年生	教科書や新聞、社会科学文献、ビデオ教材を利用して、上級後半レベルの文法・漢字・語彙をマスターし、読解力や聴解力、議論の技術を向上させる。	夏と冬に開講 各 60 時間

表3：選択科目

科目(担当者)	コマ数	対象	授業内容・到達目標	時期・時間数
日本語選択・文章表現Ⅰ(夏：杉田、冬：三枝)	1コマ /週	主に交流学生、 研究生(中級)	社会科学系の論文を書く際に必要な基本的文型や表現・語彙を習得し、論理的な文章をふさわしい文体で書けるようにする。	夏と冬に 開講各 30 時間
日本語選択・文章表現Ⅱ(夏：今村、冬：松岡)	1コマ /週	主に交流学生、 研究生、学部1 2年生(上級)	上の練習に加え、説得力ある文章を書くための論文構成の技術を習得するとともに分かりやすく簡潔な要約の訓練をする。	夏と冬に 開講各 30 時間
日本語選択・文法Ⅰ(庵)	1コマ /週	主に交流学生、 研究生(中級)	中級レベルの文法力を確実なものにする。	夏学期開 講 30 時間
日本語選択・文法Ⅱ(三枝)	1コマ /週	主に交流学生、 研究生(上級)	中・上級レベルの文法力を確実なものにする。	冬学期開 講 30 時間
日本語選択・漢字CAI(夏：西谷、冬：庵)	1コマ /週	主に交流学生、 研究生(中級)	中級漢字の読み能力を向上させ、日本語ワープロで作文練習をする。	夏と冬に 開講各 30 時間
日本語選択・翻訳の日本語(今村)	1コマ /週	交流学生、研究 生、学部1・2 年生(上級)	主に社会科学系の英語文献を日本語に翻訳する際の技術を習得する。	冬学期開 講 30 時間
日本語選択・日本語講義(五味)	1コマ /週	主に学部2年生 (上級)	社会・人文科学分野の新書や論文の抜粋を読み、社会・人文科学分野の基本概念に触れる。	夏学期開 講 30 時間

2-3. 学部の日本語関係科目(全学生対象)

「現代日本語論Ⅰ」「現代日本語論Ⅱ」「教養ゼミ：外から見た日本語」「共通ゼミ：日本語・日本語教育」は、留学生を含む、学部生一般を対象とした教養科目であり、「共通ゼミ：現代日本語」は主に日本語日本文化研修生を対象とした科目である。

表4：学部日本語関係科目（全学生対象）

科目（担当者）	コマ数	対象	授業内容・到達目標	時期・時間数
現代日本語論Ⅰ（鶴田）	1コマ／週	留学生を含む学部1・2年生	言語システムそのものではなく言語を人々がどのように使うかに焦点を当てる。	夏学期開講 30時間
現代日本語論Ⅱ（庵）	1コマ／週	上に同じ	一般の学生にも身近な文法現象を取り上げ最新の研究成果とともに紹介する。	冬学期開講 30時間
教養ゼミ：外から見た日本語（今村）	1コマ／週	学部1・2年生	ふだん無意識に使っている日本語に目を向け、他の言語との比較を通してその客観的な位置づけを探る。	夏学期開講 30時間
共通ゼミ：日本語・日本語教育（三枝）	1コマ／週	学部3・4年生	現代日本語について、特に文法を中心に考える。	通年開講 60時間
共通ゼミ：現代日本語（松岡）	1コマ／週	主に日研生	日本語、日本文化の基本文献を講読する。	通年開講 60時間

3. 学部教育科目としての日本語科目

学部教育の枠組みでは、経済学部において「経済の日本語」（週2コマ）、社会学部において「社会・人文の日本語Ⅰ」、「社会・人文の日本語Ⅱ」（それぞれ週1コマ）が開講されている。いずれも経済学部あるいは社会学部における専門日本語力の向上を図るために開設されたものだが、他学部生も履修することができる。

表5：学部教育科目

科目（担当者）	コマ数	対象	授業内容・到達目標	時期・時間数
経済の日本語（夏：西谷、冬：今村）	2コマ／週	主に経済学部の交流学生、研究生（中級）	経済学を中心とする社会科学の分野で使われる語彙・表現をテキストを用いて学習するほか、日本経済新聞などの記事も講読する。	夏と冬に開講 各60時間
社会・人文の日本語Ⅰ（杉田）	1コマ／週	主に社会学部の交流学生、日研生、研究生（上級）	社会・人文科学の代表的論文を読み、論文特有の表現を理解し使用できるようにするとともに社会・人文科学分野の基礎概念を習得する。	夏学期開講 30時間
社会・人文の日本語Ⅱ（松岡）	1コマ／週	上に同じ	「社会・人文の日本語Ⅰ」の内容をさらに深める。	冬学期開講 30時間

4. 大学院科目

「経済専門文献日本語」が経済学研究科で、「日本政治思潮」が法学研究科で、「専門日本語」と「日本語教育論」が社会学研究科で開講されている。

表6：大学院科目

科目(担当者)	コマ数	対象	授業内容・到達目標	時期・時間数
経済専門文献日本語(今村)	1コマ /週	主に経済学研究科の修士、博士課程の留学生	経済専門文献日本語の理解における落とし穴に目を向け、言語表現に現れる筆者の視点や立場を読みとる。同時に論文執筆、発表の技術にも触れる。	夏と冬に開講 各30時間
法言語文化論(三枝)(学部との共通科目)	1コマ /週	主に法学研究科の修士、博士課程の留学生と学部3・4年生	マスメディアに現れる現象や法の解釈を手段として日本人の思想・行動をいくつかの国と比較しながら考える。	通年開講60時間
専門日本語(松岡)	1コマ /週	主に社会学研究科と言語社会研究科の修士、博士課程の留学生	近代の日本語の文章を文法的に正確に読み解く練習を行う。文語文法の基礎と歴史的仮名遣いを概観し『日本近代思想体系』の文章、あるいは受講生の専門分野から文章を抜粋して読む。	夏学期開講30時間
日本語教育論(松岡)	1コマ /週	主に社会学研究科と言語社会研究科の学生	言語教育関連の諸分野における最新の成果が、日本語教育のための理論としてどこまで有効であるかを検証する。また、教育実習的なものも含める。	冬学期開講30時間

5. 補講としての日本語

留学生経費を利用して、正規のカリキュラム外に開講される。定期的実施されるものとその他のものとに分かれる。いずれも単位の認定は行われない。

5-1. 春季・秋季日本語コース

センターの日本語研修生や渡日直後の交流学生、日本語能力向上を目指す学生のために、春季及び秋季に3週間の「日本語コース」が開かれている。そのクラス編成、担当者、内容、使用教材は以下の通り。

日本語教育部門

表7：1998年度秋季日本語コース（98年9月3日～22日、全65時間）

クラス（担当者）	内容・目標	使用教材
Aクラス （三角、丸谷）	初級文法・漢字・語彙を確認しながら中級への橋渡しと聴解力の向上を目指す。	「日本語を楽しく読む本・初中級」 産能短期大学国際センター 「わくわく文法リスニング99」小林・フォード・高橋他
Bクラス （清水、渡辺）	中級前期学習者の読解力・聴解力・会話力の向上を目指す。	「中級から学ぶ日本語」神戸YMCA／大阪YMCA
Cクラス （石黒、高橋）	読解力・聴解力を中心に中級から上級への橋渡しをする。	「上級で学ぶ日本語」神戸YMCA／大阪YMCA
Dクラス （田中、中川）	上級学習者の聴解力・語彙力・会話力の向上を目指す。	「生きた素材で学ぶ中級から上級への日本語」The Japan Times

なお、同期間中に経済学研究科の主催で「上級経済日本語コース」が開かれた。

表8：1998年度春季日本語コース（99年3月2日～19日、全70時間）

クラス	内容・目標	使用教材
Aクラス （中川、浅田）	初級文法・漢字・語彙を確認しながら聴解力の向上を目指す。	「楽しく読もう2」文化外国語学校 「みんなの日本語2」スリーエーネットワーク
Bクラス （熊野、原子）	初級文法・漢字・語彙を確認しながら聴解力の向上を目指し、中級文法へと橋渡しする。	「日本語を楽しく読む本・初中級」産能短期大学 国際センター
Cクラス （梅岡、足立）	中級前期学習者の読解力・聴解力・会話力の向上を目指す。	「日本語中級」301」スリーエーネットワーク 「文化中級日本語1」文化外国語専門学校
Dクラス （高橋、渡辺）	中級後期学習者の読解力・聴解力・会話力の向上を目指す。	「中級から学ぶ日本語」神戸YMCA／大阪YMCA
Eクラス （田中、丸谷）	読解力・聴解力を中心に中級から上級への橋渡しをする。	「生きた素材で学ぶ中級から上級への日本語」The Japan Times

なお、同期間中に経済学研究科の主催で「上級経済日本語コース」が開かれた。

5-2. その他の日本語補講

1998年度冬学期に、来日直後の交流学生を対象に日本語補講を実施した。

表9：1998年度冬学期日本語補講(98年10月19日～99年2月5日)

名称(担当者)	コマ数	対象	授業内容・到達目標	授業数
日本語特別補講 (清水、太田)	4コマ/週	交流学生	初級レベルの日本語を総合的に習得させ、 「日本語中級・前」につなぐ。	88時間

(五味政信、今村和宏)